



第1号

教育委員会

たより



文責
伊平屋村
教育委員会
松田 哲市



令和3年度

伊平屋村教職員激励会・施策説明・教育長講話

「ようこそ てるしの島 伊平屋村へ」
十九人の新職員が赴任

令和三年四月二日(金)、伊平屋村離島振興総合センター大ホールにて、伊平屋村教職員激励会が挙行された。

伊礼幸雄村長の激励の挨拶では、教育理念「人材を以て資源と為す」のもと伊平屋村における「人づくり」から「村づくり」に学校・行政が丸となって推進していることや教職員の皆様に五つのお願いとして、一つ目「あいさつ、時間のけじめ」など基本的習慣を身に付けること、二つ目「読み・書き・計算」など基本的なことを徹底して身につけること、三つ目スポーツを通し、「体力づくり、忍耐力づくり」を進めること、四つ目「困難を上手に乗り越える強い心と思いやりの心」を育てること、五つ目「伊平屋村で勤務することへの自覚と責務への取り組み」をあげ、新職員を激励した。

村校長会会長の鎌田登志男校長(野甫小中)の歓迎のあいさつでは、「教員である前に、村民であれ」と伊平屋村民として、地域の人々との関わりや地域行事への参加など、村民としての自覚の必要性を説き、新職員を激励した。

新任教職員を代表して大城健校長(伊小)、上地英樹教諭(伊中)が決意の言葉を述べ、伊平屋村の児童・生徒のために尽力したい気持ちを語って頂いた。

教育委員会としても学校の自主的な教育活動を支援するとともに、学校・地域間の連携の橋渡し役に邁進していきたい。

教育長講話

伊平屋教育委員会

演題「伊平屋村で求める教師とは」 教育長 与那覇 了

教職員激励会・施策説明の後に、全教職員ならびに教育委員会の職員を対象にした「教育長講話」が行われた。

演題では、「学校とは、子ども目線を尊重し、子供と教師が学び合う場」、授業では、「子供が主役であり、子どもの能力を引き出し、気づきを与える場」、「教師が夢を持ち、夢を語り、社会生活に必要な訓練をする場」であること。伊平屋島に赴任した教師として「島の方々の記憶に残る教師であってほしいこと」など、地域や保護者ともに、子供たちの「島発ち」に向けた教育を行う大切さを新任教職員はじめ、二、三年目の教職員にとっても、村民の期待や責任を改めて確認する機会となった。

研修会の感想

「子供の反応を見れば分かる」「子供の能力に合わせ
て・・・」など教育長の言葉から教育理念や人柄が伝わってき
ました。教育長の視点は常に「子供」にあるのだと認識し、感銘を
受けました。



伊平屋小学校 新任職員



伊平屋中学校 新任職員



野甫小中学校 新任職員